



ごあいさつ

瀬戸 皖一

日本学術会議 会員
病態系歯学分科会 委員長

日本学術会議病態系歯学分科会の主催、(社)日本口腔外科学会共催による公開シンポジウム「ビスホスホネート治療による顎骨死の現状」にお出かけくださいまして有難うございました。

ビスホスホネートは骨粗鬆症治療、がんの骨病変などに幅広く用いられており、わが国の対象患者は数百万人に上り、特に高齢者治療に欠かせない薬物といわれております。しかし、最近この薬物治療により顎骨壊死を生じる可能性があることがわかり、将来大きな社会問題となることが懸念されています。顎骨に特異的に生ずる壊死病変の病態は現段階では十分に解明されておらず、従来から知られている放射線骨壊死などとも様相を異にしているようです。従って治療法、予防法も確立していないのが現状です。

もとよりビスホスホネートは骨代謝に関わる画期的な治療薬であり、その適応となる疾病が骨粗鬆症、骨のがんなどをはじめとして多岐にわたっております。まさに高齢社会を迎えている世界の人々にとって大切にしなければならぬ薬剤で、稀に生じる合併症のために葬り去るとすれば大きな損失です。

そこでこれに直接関係する内科、整形外科などの専門領域と歯科、口腔外科との間で問題点を共有し、現状を把握して、その治療と予防を模索するためにシンポジウムの開催を企画しました。医療の中で業を異にしている医科と歯科の臨床の溝を埋めて共同作業をするよい機会でもあり、日本学術会議がとりあげるべき喫緊の課題と考えています。

今回のシンポジウムでは高齢社会への福音とも云うべきビスホスホネートと顎骨壊死との関係について、いま何がわかっているか、何がわかっていないか、今後どうすればこの合併症を治療、予防できるかを模索したいと考えています。骨代謝に関わる基礎と臨床医科と歯科との間で統合的な研究を進めていく緒となることを期待しています。